

総合調査設計株式会社  
Sogo-Chosa-Sekkei Co.,Ltd. presents

大阪探検隊  
Osaka City Expeditionary party

vol.012

[なんばパークス]

numba parks



総合調査設計では、大阪を中心としたまちの魅力を発見、発掘することを目的として「大阪探検隊」なる活動を行っています。

今年の10月7日にオープンした大阪・ミナミの新名所「なんばパークス」をいち早くレポートしてきましたのでご紹介致します。

## なんばパークスと六本木ヒルズ



### なんばパークスの概要

なんばパークスは、大阪球場跡地に南海電鉄が建設した約3.7ha複合型商業施設です。

総事業費は約600億円。よく比較される六本木ヒルズは、開発面積約11.0ha、事業費は約2,700億円(土地評価別)です。

単純に換算すると、それぞれ1haあたり事業費は、なんばパークスが162億円、六本木ヒルズが245億円と、住居や放送センター、ホテルなどを有するヒルズのほうがやや豪華となっています。

両者とも、アメリカのホートンプラザの開発で有名なジャーディ・パートナーシップが関わっています。

日本では九州のキャナルシティなども、ジャーディによるものです。

### なんばパークスの主な見所

主な見所は、商業棟7階の食堂街「大阪ヌードルシティ（浪花麺だらけ）」と幾層に形成された屋上庭園でしょう。

浪花麺だらけでは全国各地の麺を食べるだけでなく、お土産コーナーなども設けられており、テーマパークとして十分なパワーを発揮しています。ちなみに全国と書きましたが、千葉、茨城、鳥取の麺はありませんでした。

建築的には、ジャーディ・パートナーシップのお家芸的な空間の作りかたが特徴的です。前述の3つの施設にも共通するように、動線を交錯させることでより一層の賑わいを演出しています。

外界を閉ざした中庭は、ゆるやかな曲線の多用と、壁面や舗装材にナチュラルカラーを採用することで、落ち着いたある飽きのこない空間を作りだしています。



写真左)  
なんばパークスの中庭空間

谷のような空間をデッキが渡り、人の動きにより賑わいを演出。



写真右)  
六本木ヒルズの内部空間

ヒルズも様々な場所に、人の動きをみることができる。壁面の質感は、地層の断面のようで、ナチュラルな色味で構成されている。

上記写真を見ると、区別が付きにくいほどよく似ています。

### ミナミの庭、屋上庭園

屋上庭園は、動線を分けることでヒューマンスケールにマッチしたものとなっています。

オープン間もないこともあり、通路が狭いくらいに賑わっていました。

ただ、気候的に厳しい真夏や真冬にもこの賑わいが維持されるかどうかちょっと心配です。



### 屋外のステージ

屋上庭園の8階には円形劇場が設けられており、イベント対応にも配慮がされていますが、規模や設備の点で六本木ヒルズの方が勝っているようです。



写真左)  
なんばパークスの円形劇場

なんばパークスの劇場は、休憩の場として利用されていた。



写真右)  
六本木ヒルズのステージ

六本木ヒルズのステージは、放送センターに隣接しており、その設備や作りも圧巻。

## レポート後記

これまでのミナミは、人がゆったりとたたずむ場所があまりにも少なすぎたと思います。湊町リバープレイスや今後整備が進められる道頓堀川遊歩道と合わせ、やすらぎの場を持つミナミへとイメージを一新させることと思います。

写真右)

円形劇場付近。

写真右下)

中庭空間を見下ろす

写真左下)

メイン動線となる駅側から屋上庭園部を見る

幾つかの層で構成された空間は、地層を感じさせる。

自然的な空間と、現代的なビルの対比は、やはりヒルズと共通した構成である。

この東西勝負は、今後の楽しみである。



照明なども低い光源がメインに設置されており、夜はまた違った表情を感じさせてくれることでしょう。次は是非、夜景を眺めながらの食事でも。